

国際学会での発表

@シンガポール

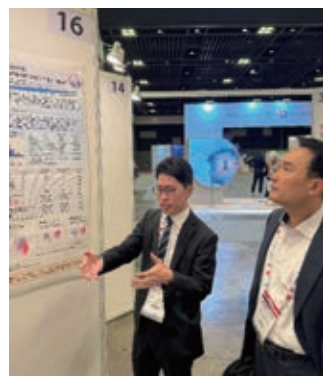
私たち三重病院の医師は目の前の患者さんに対応させていただくだけでなく、研究を通して、新しい病態の解明、新規治療の開発、などを行っています。研究成果を報告する場面として、論文として出版したり、学会に参加し発表を行います。今回は、アレルギー科の山田、西田、藤澤の3名でシンガポールのアジアアレルギー国際学会に行ってきましたので報告させていただきます。(写真は育成医療センターの先生と一緒に撮影しました。)

山田は「Utility of lymphocyte proliferation test for diagnosis of food protein-induced enterocolitis by egg yolk (卵黄による食物蛋白誘発胃腸症に対するリンパ球活性化試験の有用性)」について口頭発表し、西田は「Lung function decline is not uncommon in pediatric patients with asthma even with ICS treatment (吸入ステロイド治療をしても肺機能の低下する小児患者)」についてポスター発表、藤澤先生は招待講演で「Common Eosinophilic Diseases in Children」

は、それはもう緊張しました。質問をしてくれた内容を理解する、それに対する回答を英語に頭の中で直して話す、やはり母国語でない言葉で話すのはとても難しいです。

しかし、このような経験をさせてもらったことは医師として、研究者として成長するとてもいい刺激をもらいました。英語の習得も進め、海外からの患者さんにも安心して受診して頂けるようにできればと思います。

(アレルギー科 山田 慎吾)



について発表されました。発表はもちろんすべて英語ですので、うまく話せない山田と西田



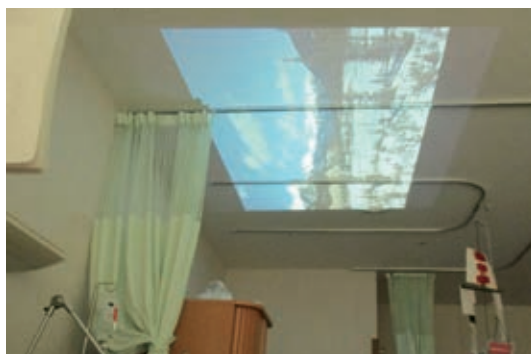
南3病棟

病棟紹介



南3病棟は脳神経内科病棟であり、三重県の神経難病拠点病院の役割もあります。長期療養の患者様から在宅療養の支援として短期療養の患者様と幅広く入院受け入れを行っています。

病状の進行により言葉でのコミュニケーションが難しくなっても、口の動きや瞬きなどのアイサイン、文字盤の使用など患者様の病状に合わせてコミュニケーションを図っています。患者様の思いが伝わらない場面を作らないように、思いをくみ取れるような関係性を築ける看護ケアを実践しています。また長期臥床で日常生活援助が必要な患者様が多いですが、ひとりひとりの患者様が望む生活を送ることができるよう、患者様、ご



家族様を中心に、全ての医療職が連携して取り組んでいます。

写真はベッドでの生活の中でも季節感を感じてもらえるように、ベッドの天井に季節に応じた映像を映し、音やにおいなど感じてもらうように工夫したものです。家族の方に入院前の好みであったものをお聞きし、患者様やご家族様にも喜んで頂けるように取り組んだ一例です。

(看護師長 中島 玲美)